

月旬	7 上 中 下	8 上 中 下	9 上 中 下	10 上 中 下	11 上 中 下	12 上 中 下	目標収量：2,500kg 秀品：80%以上	排水対策の徹底と 輪作で安定多収																		
栽培体系	<p>(高い山間)</p> <p>・地上に露出した部分が、陽光と日夜温度差で鮮やかな赤紫色になる。 ・排水の良い有機質に富んだ硬質の土壌で、パリパリとした歯ざわりの良い肉質になる。</p>						<p>種子量 散播 300dl 播種機（条播）200dl 10a 当り 規模拡大：播種機（条播）利用、トラクタアタッチ多条有 ・うね幅 15～20cm ・株間 7～8cm 1 粒播種（裸種可能）：間引きをしないで大きさが揃い、一斉収穫ができる</p> <p>・施肥例（10a 当り）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>数量（kg）</th> <th>成分、摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆きゅう肥（完熟）</td> <td>2,000</td> <td>前作または前年に施用する</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B M ようりん</td> <td>40</td> <td>N成分：5～6kg</td> </tr> <tr> <td>MMB 複合燐化安</td> <td>40</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td>20</td> <td>過剰にしない</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	数量（kg）	成分、摘要	堆きゅう肥（完熟）	2,000	前作または前年に施用する	苦土石灰	100		B M ようりん	40	N成分：5～6kg	MMB 複合燐化安	40		硫酸加里	20	過剰にしない
	肥料名	数量（kg）	成分、摘要																							
堆きゅう肥（完熟）	2,000	前作または前年に施用する																								
苦土石灰	100																									
B M ようりん	40	N成分：5～6kg																								
MMB 複合燐化安	40																									
硫酸加里	20	過剰にしない																								
病害	<p>根こぶ病が発生したら「連作」しない 同一圃場でのアブラナ科の連作はしない -根こぶ病、軟腐病、べと病- -ネキリムシ、キスジノミハムシ、アブラムシ、アオムシ-</p>						<p>施肥は、播種の7～10日前に施し耕起しておく。 (土壌検査で、窒素量を測定してもらう)</p>																			
栽培上のポイント	<p>1. 播種準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水対策（とくに転作畑） 幅 20cm、深さ 25cm 以上の明きよをうねにそって掘る。面積が大きい場合は、十文字に切る。 播種床を高めとし（20cm）地表面に雨水がたまらないようにする（転作畑） <p>弾丸暗きよ、サブソイラーを横に 2～3m おきに入れる</p> <p>排水の出口もきちんと</p> <p>●明きよ：幅20cm 深さ25cm以上に</p>		<p>・施肥 堆きゅう肥は、前作か前年度に施しておく。チッソ成分が過剰だと葉だけが茂り、根部が小さく色が着かない。 豚、牛のきゅう肥やチッソ肥料は過剰にしない。播種直前の過剰では、害虫が多発しやすく、葉だけが大きくなり品質低下につながりやすい。</p> <p>・根こぶ病 アブラナ科以外の作物と輪作。土壤水分が多く、酸性土壌で発生しやすい。土壤 pH は 6.5～7.0 で矯正する。（排水の徹底）</p> <p>・キスジノミハムシ（根部を食害）の防除を徹底する。</p> <p>播種前 根こぶ病 ネビジン粉剤 30kg/10a 全面土壤混和 播種時 キスジノミハムシ フォース粒剤 4kg/10a 播溝土壤混和 ネキリムシ類は、播種前から除草対策の徹底を計ること。</p>		<p>2. 播種（好光性種子 覆土は不要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 降雨後など、圃場はやや湿っていると発芽が揃う。 播種後に軽く鎮圧すると、種が流れず、根が地上に出て品質が向上する。（キャリアやローラー等を利用する。） 播種後に除草剤散布（全面散布） 機械播種は 4～8 本 <p>根の肥大が揃う</p> <p>散ばの場合は、種子量が少ないので砂などで増量して散ばする。</p> <p>・間引き 本葉 2～3 枚の頃から混み合っている部分を間引き、最終的な株の間隔を 12～15cm にして、根に陽光を当てる。</p>		<p>3. 追肥 ・葉色が淡いときや生育が遅れている部分にのみ施す（N成分 1～2kg/10a）</p> <p>4. 収穫 ・根部の肥大に良いものから順次収穫を行う。</p> <p>大根、にんじん、白菜、ブロッコリーなど同じアブラナ科の作物は連作しない。（根こぶ病、多発） 収穫後の作付けは品目を要検討。</p> <p>品質向上 ホウ素が欠乏すると、根の表面がザラつき肉質が硬くなる。（転作、山畑）排水不良畑、未熟のきゅう肥を多投すると、根部に黒いスジや腐敗が入りやすい。 微量元素（B）肥料を使う。 排水を良くする。</p>																			

赤かぶ (温海かぶ) 露地栽培 栽培暦

平成 年 月 日

月旬	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

目標収量：2,500kg
 秀品：80%以上
 排水対策の徹底と
 輪作で安定多収

栽培体系

(高い山間)

・地上に露出した部分が、陽光と日夜温度差で鮮やかな赤紫色になる。
 ・排水の良い有機質に富んだ硬質の土壌で、パリパリとした歯ざわりの良い肉質になる。

種子量 散播 300dl 播種機 (条播) 200dl 10a 当り
 規模拡大：播種機 (条播) 利用、トラクタアタッチ多条有
 ・うね幅 15~20cm ・株間 7~8cm
 1 粒播種 (裸種可能)：間引きをしないで大きさが揃い、一斉収穫ができる

・施肥例 (10a 当り)

肥料名	数量 (kg)	成分、摘要
堆きゆう肥 (完熟)	2,000	前作または前年に施用する
苦土石灰	100	
BMB ようりん	40	N成分：5~6kg
MMB 複合燐化安	40	
硫酸加里	20	過剰にしない

病害

根こぶ病が発生したら「連作」しない 同一圃場でのアブラナ科の連作はしない
 -根こぶ病、軟腐病、べと病- -ネキリムシ、キスジノミハムシ、アブラムシ、アオムシ-

施肥は、播種の7~10日前に施し耕起しておく。
 (土壌検査で、窒素量を測定してもらう)

< 10a 当り >

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下

品種名： _____

種子量： _____ dl

うね幅： _____ cm

株 間： _____ cm

条 間： _____ cm (_____ 条)

栽培暦

	肥料名	現物数量
全量基肥	_____	_____
	_____	_____
	_____	_____
	_____	_____
追肥	_____	_____
	_____	_____

